



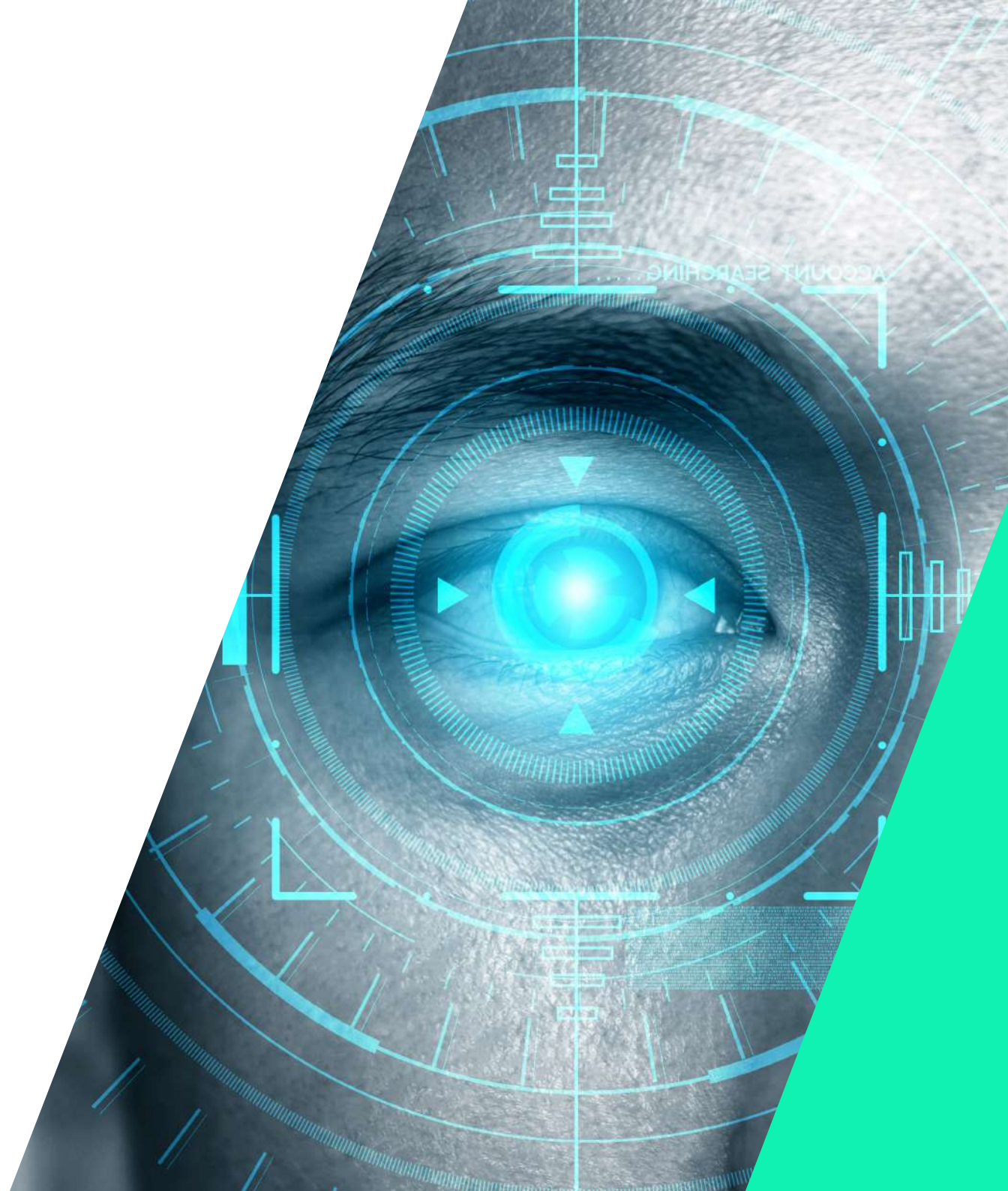
Risk through a new lens

2022 年 3 月

不確実性から機会が生まれる

リスクが急速に変化する中、ビジネスアシュアランスのソリューションは、より機敏に対応出来るようになって来ています。この変化を受け入れる組織は、結果として、より確かな足取りで将来に備えることが可能となります。

このような機会を踏まえて、本レポートは作成されました。LRQA の保証、検査、認証、インサイトチーム全体の専門知識を活用して、よりダイナミックでデジタル主導のアプローチをとるための 3 つの主要分野を特定しています。保証とリスクマネジメントは、ビジネスに進化と繁栄のための知識、統制、自信を与えることができます。



Contents

重要なポイント	03
リスクマネジメントには新しい状況が必要：Paul Butcher	04
変化の時代に機敏性を可能にする	05
よりスマートなデジタルおよびサイバーセキュリティのリスクマネジメント	10
ESG アシュアランスとサステナビリティの高い未来	15
総括	20
寄稿者	21
お問い合わせ	22
LRQA について	23

重要なポイント

1 急激な変化の時代において、デジタル・アシュアランスにより機敏性を可能にする

この数年で、機敏な対応がレジリエンスと持続可能な成長の鍵であることが実証されましたが、組織の方向性を自信を持って転換できるようにするためには、オペレーション、サプライチェーン、プロセスが重要であるという確信が必要です。認証と検証に対する新しいアプローチが、サプライチェーンの可視性を高めるとともに、品質と安全に対する統制を確保できます。迅速かつ機敏性を確立する方法を LRQA は探索しています。

2 ブランド保証とサイバーセキュリティに対する洗練されたアプローチによって、より革新の方向へと導く

リスクマネジメントは、時には革新に対する障害とみなされる可能性もありますが、本レポートでは、認証と検証が革新的なビジネスを支援するために、どのようなペースかつ進化を遂げているのかを記載しています。総合的なサイバーセキュリティの必要性和サプライチェーンを保護するための留意事項についても考察します。

3 ESG 戦略における保証と透明性の決め手

環境・社会・ガバナンス（ESG）の実践に対する信頼の構築は非常に重要ですが、報告義務の変更によって複雑になる傾向にあり、また地域や組織によって大きな相違が生じています。ブランド保証のスペシャリストは、利害関係者の監視に対応し、進化する規制に対して将来を見据えたビジネスを支援できるガイドラインとベストプラクティスを確立する方法を先導しています。





リスクマネジメントには新しい状況が必要

Paul Butcher, CEO, LRQA

変わらないものはこの世には存在しません。我々が暮らし、働いている世界は絶えず変化しています。社会がもっとグリーンで持続可能な世界に向かうのに伴い、私たちは大きな課題に直面します。ビジネスモデルと私たちの価値観の整合性をもっと高めることによって、サプライチェーンの強化と多様化を実現し、高い機敏性とレジリエンスを構築する必要性にも直面しています。

こうした不安定な状況下では、組織は変化が激しく素早く変動するリスクに晒された状態となり、デジタルと運用上のネットワークの複雑性の増大に伴って管理がさらに難しくなります。今日の市場で勝ち残っていくためには、組織は変化に対応して、迅速な方向転換や移行を実施する必要があります。

組織はまた、信頼を確立し、ビジネスが模範的なものであると、改めてお客様に確証していただく必要があります。投資家、規制当局、顧客による監視が強まったことにより、組織はブランドを維持するために、独自のオペレーションの範囲内にとどまらず、グローバルサプライチェーン全体で、技術面や環境面での卓越性を立証する必要があります。

しかし、リスクマネジメントを防御的な戦略とみなすのは誤りです。リスクに対する正しいアプローチによって、ビジネスを有効に継続し、将来的に確固たる地位を確立することができます。また新たなパートナーシップの構築、新しい技法や技術の開拓、規制を先取りした対応等が可能になります。多種多様なリスクマネジメントを可能にするため、また新たな機会を創出できる枠組みを構築するため、保証とイノベーションの連携によるフレームワークを作成する必要があります。

テクノロジーとデータを利用した新たな方法によって、これらの課題に対処することができますが、それらを活用するためには新しい方法を創造する必要があります。本レポートでは、革新的かつパートナーシップ主導のデジタルアプローチの事例に焦点を当てています。

私達が置かれた状況は常に新しいものとなっています。未来に焦点を移すことで、革新する市場に存在する課題を受け入れることができます。将来においても有効に存続するビジネスを構築するため、新たな機会の発見を LRQA は目指し続けます。

第1章：

変化の時代に機敏性を可能にする

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的なパンデミックから Ever Given 号の海難事故に至るまで、過去数年の出来事は、調達とサプライチェーンマネジメントに関して長い歴史を誇るジャストインタイム（必要な物を、必要なときに、必要なだけ生産する）アプローチに挑んできました。サプライチェーンダイナミクスの状況下の中での変革は、世界中の組織でリスクに対する考え方の見直しを迫っており、多くの検討事項が浮上しています。



第1章：変化の時代に機敏性を可能にする

サプライチェーンの可視性を高める必要性

2020年第1四半期に見られた混乱と不足によって、サプライチェーンの承認に対する従来のアプローチでは、レジリエンスに必要な柔軟性と機敏性をもたらすことは難しいという認識につながりました。実際、パンデミックが始まってわずか数ヶ月で、サプライチェーンを担当する上級管理者の93%が、サプライチェーン全体でのレジリエンスのレベルを引き上げる計画を立てていました¹。しかし、調達に対するモジュール方式のアプローチの増加と、新しいテクノロジーの採用により、新たなサプライヤーとまだ検証されていない取引先からは本質的リスクを伴うという不確実性が生じています。

同時に、サプライヤーリスクの性質も進化しています。製品の品質、安全、規制遵守等がサプライヤー・リスクマネジメントの中心になると、新たに2つの懸念の重要性が急速に高まってきています：ESGパフォーマンスとサイバーセキュリティに関するトピックについては本レポートの後半で再び取り上げます。

多様なサプライチェーンを持つ大規模な組織にとって、これらのリスクは特に深刻です。組織は一次サプライヤーと二次サプライヤーの活動に関する評価を十分に行っているかもしれませんが、サプライチェーンの中には多くの周辺サプライヤーを含んでいる可能性があります。こうした複雑性の枠を越えて、可視性を維持し高めていくことが課題です。

リアルタイムの保証サービスの威力を解き明かす

新しいテクノロジーとデータ主導のリスクマネジメント実務の進化に伴って、機敏性を高めることができます。パンデミック期間中には、企業が事業活動を継続するために必要だったリモートでの審査と検証を採用したことにより、業務の中断を最小限に抑えることだけでなく、審査と検証のプロセスの厳格性、効率性および生産性を高めることができる方法を示しました。

¹ McKinsey & Company, 新常態に備えたサプライチェーンのリセット、2020年第2四半期

リモート審査活動に携わっている企業の

90%

は、将来的にリモートで審査する恩恵を実質的に受けることができることを認めています。

IAF/ILAC/ISO Survey on Remote Audit/Assessment/Evaluation, 2021年12月。

第1章：変化の時代に機敏性を可能にする

オフィスを離れることなく、複数の大陸にまたがって複数の拠点での審査を可能にすることにより、リモートテクノロジーはさらに迅速でリアルタイムの保証サービスの可能性を示しました。これにより、例えば、チリに拠点を置くシーフード製品会社の経験豊富な審査員は、英国のスーパーマーケットに関して、タイの新たなサプライヤーに関する審査を主導することができます。

環境フットプリントの削減も明かなメリットの一つです。アンケートの参加者の95%が変化を引き起こす要因の一つとみなしています²。リモート審査は当事者の労働安全衛生に関する多くの留意事項にも取り組む一方、直接アクセスできない領域での検証を可能にしています。例えば、北海の海底にある高圧室内は船舶運航業者との動画リンクを通じて管理することもできます。しかし、これは始まりにすぎません。ドローン、複合現実（現実世界と仮想世界を複合・融合させ、相互にリアルタイムで影響し合う空間を構築する技術）、モノのインターネット（IoT）は、この先何年も従来の審査の実践を強化する可能性があります。

英国でLRQAは、データとテクノロジーを通じた廃棄物の削減を通じて、食品サプライチェーンに対する信頼構築を主導しています。SecQuAL（デジタルフードエコシステムのための安全で品質保証付きのロジスティクス）プロジェクトは、当初は豚肉生産におけるスマートラベルの適用に重点を置いていましたが、確立されたサプライチェーン企業とテクノロジーの革新者を結びつけ、唯一のデジタルIDを利用して、サプライチェーンをリアルタイムで追跡監視できる方法を調査しています。このテクノロジーを応用することによって、食品の原産地情報の提供、コールドチェーンの状況監視、品質保持期間予測の精確性向上にとどまらず、消費者から生産者に対する直接のフィードバックも可能にしています。

² IAF/ILAC/ISO Survey on Remote Audits, Assessments and Evaluations - 2021年12月



第1章：変化の時代に機敏性を可能にする

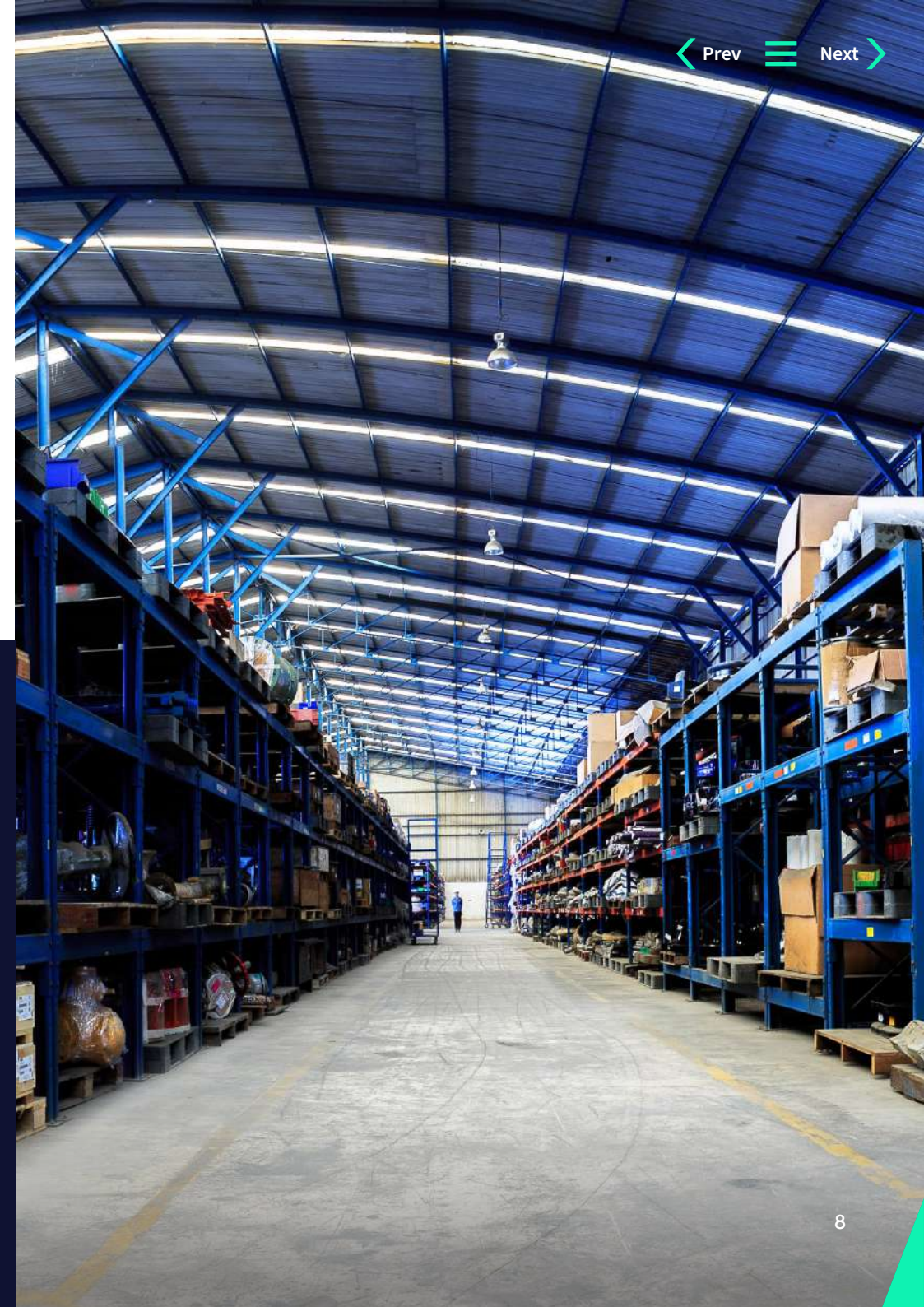
サプライヤーと共に変革する文化

テクノロジーの影響力がどんなに強くなっても、プロセスから人的要素を排除することはできません。こういった状況下の中でサプライチェーンが適応するにつれて、文化は変化を続けています。初期段階からの契約関係や入念な検査を行っているサプライヤーに重点を置いている状況から、コーチング、長期的な協力関係、提携関係という文化を創り出しているサプライヤーに重点を置くようになってきています。

ブランド規格を満たし、ビジネスを強化するために、サプライヤーのスキルを高めるトレーニングの価値は非常に重要な要素になります。こういった投資から得られるメリットは、従業員の能力向上、インシデント件数の削減、効果的な審査と検証時間やコストの削減に繋がります。

概要

保証における革新には、変化へのコミットメントと盲点に注目し、現状の弱点から新たな機会を見いだそうとする意欲が必要です。新しいテクノロジーが審査と検証の実践を変える状況の中で、リスクを管理する方法の再考が不可欠です。このような機会を通じて、有効に存続するサプライチェーンの必要性、サプライヤー全体での可視性の向上、また品質と統制を迅速に実現する方法を確立に繋がります。



第1章：変化の時代に機敏性を可能にする

ケーススタディ：

認証を通じて行動様式を継続的に改善

遠隔地や移動の混乱はもはや認証に対する障害では無くなっています。国際的なロックダウンの中でも、サプライヤーはリモート審査によって認証を獲得し、品質の良さをパートナーに証明することができています。



課題

新型コロナウイルス感染症によるロックダウンにもかかわらず、郵船ロジスティクスはマネジメントシステムとの一貫性を高めるとともに、組織的なレジリエンスを強化することを目標としました。



ソリューション

セクター固有の技術的な専門知識と顧客至上主義は、郵船ロジスティクスによる現在のマネジメントシステムの変革を後押ししました。

パンデミック規制の期間中であっても、審査をリモートで実施し、業務の中断を最小限に抑えるとともに、郵船ロジスティクスが認証を取得するサポートを行いました。



メリット

- ポーランドにある6つの拠点の全てで、ISO 45001（労働安全衛生）、ISO/IEC 27001（情報セキュリティ）および ISO 9001（品質）の第三者認証を取得
- 顧客と従業員に安心感を提供
- 最高の規格を目指した継続的改善を証明

第2章：

よりスマートなデジタル およびサイバーセキュリティ のリスクマネジメント

インターネットとIoTによって可能になったプロセスやオペレーションのデジタル化に伴い、データを利用してリスクを監視、分析、予測することの重要性が次第に高まっています。データに対する協調的なアプローチを促進できれば、機会は最大化できると言われています。一方で、サプライチェーンの全過程においてデータを保護し、サイバーセキュリティを維持する必要があります。



第2章：よりスマートなデジタルおよびサイバーセキュリティのリスクマネジメント

データが保証と検査に対する予測アプローチを推進

自身のビジネスの範囲内や、その他の場所でのデータ活用を模索することによって、保証プログラムをリスクベースかつ、予測主導で効果的なものにします。機会は豊富にありますが、導入が難しい場合があること、また断片的な方法でアプローチすると、デジタルトランスフォーメーションによる効果的な影響をもたらすことができない場合があります。2020年の調査によって、パンデミックの開始時に行われたデジタルアップグレードのうち、59%は急速に配置された課題を解決するために、短期的な修正が必要になったことが明らかになっています³。

組織は、不十分であると感じるテクノロジーやデータソースだけでなく、データ主導によって解決へと導くことが出発点だと認識する必要があります。正しいアプローチを実施することは、リスクマネジメントプログラムが変革される可能性があります。適切なデータは、将来のリスクが発生する可能性が高い場所、また発生しない場所を特定するのに役立ち、危機に瀕している領域にリソースを集中させることができます。特定の状況において、失敗するリスクが高いことを示している場合には、同一の方法で審査や検証を実施しても意味がありません。同時に、リスクが低い領域に関してはより効率的な方法を考案できます。


インテリジェンスと洞察を得るだけでなく、効果的な行動を起こすために、そのデータをどのように扱い、組織を支援するために変換する必要があるかどうかを確認する必要があります。


Kimberly Coffin, Global Technical Director, LRQA

³ AppDynamics, The Agents of Transformation Report 2020：新型コロナウイルス 特集版、2020年5月

第2章：よりスマートなデジタルおよびサイバーセキュリティのリスクマネジメント

サイバーセキュリティを保証戦略に統合

[PwCが行った最新の年次グローバル CEO アンケート](#)によると、サイバーセキュリティは世界的に最優先事項の一つに挙げられています。サイバーセキュリティはもはやCEO、CTOやIT責任者だけの懸念事項ではなく、あらゆるサプライチェーンとテクノロジーを担当する責任者の課題にも含める必要があります。

産業のデジタル化に伴い、サイバー脅威に対するリアルタイムの保証の必要性が高まっています。従来行っている年一回のアセスメントではもはや不十分かもしれません。情報セキュリティや、脆弱性と脅威に関する継続的なモニタリングとリアルタイムの認識によって、リスクベースの意思決定の改善を促進できる可能性があります。

同時に、組織は自身のサイバーセキュリティリスクだけでなく、サプライチェーンで発生するサイバー脅威の可能性についても認識する必要があります。意思決定は、サプライヤー、新製品開発、新しく進出する市場を中心に行われるため、サイバーセキュリティのリスクマネジメントは、当初の導入段階で満たすべきチェックポイントではなく、厳格で継続的なアシュアランス保証戦略の一部として形成する必要があります。

サプライチェーンのグローバルな性質により、サイバー攻撃に伴う潜在的な影響が増大します。サプライヤーやスペシャリストとの協調したアプローチによって、リスクを軽減するアプローチの開発を促し、大きな進歩を遂げる可能性があります。

各ビジネスに沿った形でサイバーセキュリティを保証プログラムに組み入れることは、現在認識している脅威に対処するとともに、まだ認識していない脅威を考慮に入れる必要性を示しています。

リスクについて考える際、組織には、リスクを受け入れる、リスクを軽減する、別の関係者にリスクを転嫁する、またはリスクを完全に回避するという4つのオプションがあります。リスクを完全に回避すると組織のオペレーションは厳しく制限されることになるため、多くの組織がリスクを保険会社に移転させることを選択します。しかし、サイバー攻撃件数の増加によって保険料が押し上げられ、保険会社は事前にリスクをもっと軽減することを組織に求めています。サイバー犯罪が増加している中、最も適切なテクノロジーを目標にした投資が必要不可欠です。

第2章：よりスマートなデジタルおよびサイバーセキュリティのリスクマネジメント

オープンデータの普及が進む時代に向けて

社会的利益を実現するためのデータ共有原則は既に確立されています。オープンバンキング（アプリケーション・プログラミング・インタフェースを使用して消費者の金融データを第三者に公開するプロセス）がその一例で、共有されたデータは組織と消費者の双方に利益をもたらしています。つまり、金融機関が顧客の行動や意思決定に関するより良い見識の獲得を可能にし、それによって消費者の新しい考え方を刺激できるようになるのです。

例えば、食品セクターにおけるリスクについての協力的なアプローチは、食品安全に関わる重大な出来事や事象の理解を支援するだけでなく、サプライチェーンに共通したリスクの考察にも役立つ可能性があります。組織が自社のビジネス以外でデータを共有することは慎重になる傾向にありますが、利害関係者が責任あるビジネスからより多くを要求するにつれて、安全性、サステナビリティ、およびサプライチェーンの改善の観点から、共有データの潜在的な利益が見過ごされ続ける可能性もあります。

概要

プロセスの自動化によって、サプライチェーン保証の効率を高め、大きな規模で実現できる良好な結果をもたらすと共に、比較的リスクの高い箇所での保証や、イノベーションのためのリソースを開放できる可能性もあります。データ共有によって、予測リスクと共有学習を広げることができますが、サイバー攻撃に対するレジリエンスを構築する取り組みと並行して進める必要があります。サプライチェーンのすべての関係者とベストプラクティスを確立することは、利益とセキュリティの共通のレベルに達するためには不可欠な要素になります。

第2章：よりスマートなデジタルおよびサイバーセキュリティのリスクマネジメント

ケーススタディ：

変化の激しい時代にあったセキュリティを 目的にした提携

サイバー脅威の高度化と頻度の増加に伴って、セキュリティマネジメントの機敏性と効率性の向上が求められています。組織がサイバーリスクマネジメントのため、積極的なアプローチにシフトしている変化の時代には、特にこうした指摘が当てはまります。



課題

当社の金融サービスを利用しているクライアントは、最悪のタイミングで一連の悪質な出来事を経験しました。IT セキュリティチームで要員の変更が行われ、社内のファイアウォーリング技師が最近退職し、データセンターからクラウドベースのプラットフォームに移行する大きなプロジェクトが進行中でした。当社のクライアントは、脅威の監視、検出と対応の全体でベストプラクティスを実践するために、素早く行動できる信頼のおけるパートナーを必要としていました。



ソリューション

Nettitude Security Operations Centre (SOC) のワークショップは、文書作成プロセスの特定と改善、重要なデータの保管場所の見直し、最も可能性の高い攻撃経路のモデル化を行いました。クラウドベースの新しいソリューションの平行レビューにより、すべてのソリューションを素早く移行できるように努める一方、クライアントのファイアウォール資産は認定コンサルタントによってベストプラクティスと比較しながらレビュー、修繕、再構築が行われました。正しい情報が確実に SOC ソリューションに供給されるようにするため、企業を取り巻く環境に関する理解を深めることによって、ロギング要求事項の定義の見直しが行われました。



メリット

- 第三者の独立したチームの演習では、検出と対応の全体で実現された改善の試験と検証が行われました。現在は、定期的なサービスレビューによって改善が推奨され、新たに出現する脅威に対処しています。
- 設定を改善したことによって誤検出の件数が減少したため、サポートスタッフの間での「警告疲れ」への取り組みを支援し、調査時間の短縮と他の場所での適切なリソースの配置を可能にしています。
- クラウドへの合理化および簡素化された移行と再認証によって、Nettitude の SOC は初日からクライアントに警告を発することができました。

第3章：

ESG アシュアランスと サステナビリティの 高い未来

今日では、企業がサステナビリティに対する意欲を表明するだけでは不十分です。従業員、顧客、パートナー、投資家に対し、環境・社会・ガバナンス問題に関する進捗状況を有意義な形で示す圧力が高まっています。とりわけネットゼロという課題の緊急性によって、企業はそれぞれの意欲を公に再評価することを迫られています。事実、47%のCEOは今後12ヵ月以内にサプライチェーンの中で、サステナビリティと気候変動に対するイニシアティブの拡大を計画しています⁴。

⁴Deloitteの2022年冬季のFortune/Deloitte CEO アンケート

第3章：ESG アシユアランスとサステナビリティの高い未来

ESG 認証を通じた信頼の構築

自己報告と自己評価だけではもはや不十分です。厳格な ESG 検証と認証はブランドにとって不可欠なものになってきています。具体的には、独立した機関を通じて信頼性を構築し、自らの目標や価値観に対する進捗状況を追跡する組織のコミットメントを示すことが重要になります。

信頼の低下と監視の高まりを背景に、企業はサステナビリティ戦略を周知させるとともに、正しい慣行を実施し、それぞれの組織の全過程において、またサプライヤー全体での改善が実現されていることを実証する必要に迫られています。

ESG に関する主張と、データが正確であることを独立した機関が検証することが、信頼を確立するために急速に必要になってきています。例えば、CDP のグローバル・ディクロージャーシステムでは、検証された炭素データは既に重要な役割を担っており、サステナビリティと社会的責任プログラムの他の側面においても、検証への方向性が明確になっています。ガイドラインや規格（第三者が設定したものか、組織自身が設定したものかを問わない）に沿って運営し、それに対して独立した監査を受けることで、組織のパフォーマンスの監視、理解、管理を効果的に実施することが可能になります。



第3章：ESG アシュアランスとサステナビリティの高い未来

規制を先取りした対応

サステナビリティは幅広いテーマであり、その意味は組織によって異なります。国連のSDGs（持続可能な開発目標）は共通の基準点ですが、「持続可能である」ことに対する普遍的な基準は存在しません。

COP26 で国際的なサステナビリティ基準審議会を発足するなど、様々な取り組みが行われていますが、ベンチマークに関する合意がすぐに形成される可能性は低いと見られます。むしろ、EU による炭素関税からドイツの強制力のある人権デューデリジェンス法に至るまで、国、地域、セクターや企業が独自の基準や、法律、規制を導入しており、グローバルな事業やサプライチェーンを調整するための大きな課題が発生しています。

国際的な一貫性がない限りは、こういった政策の相違を理解することが重要になります。その背景を考慮して認証プログラムを適応させることは、組織が常に政策を先取りするための最も効率的な方法の一つになります。


サプライチェーンを測定および監視する必要があります。また組織がそれを実行した際、オペレーションの改善を始めることができます。そういった取り組みが機会へと繋がります。


Benjamin Western,
Global Sustainability Manager, LRQA



第3章：ESG アシュアランスとサステナビリティの高い未来

イノベーションの保証

議論と意見の相違に満ちているこの分野では、テクノロジーがもっと持続可能な未来の中心になるという明確なコンセンサスがあります。例えば、水素経済の開発の動きは、新しい製品やテクノロジーに対する膨大な要求を生み出しますが、こういった最先端の産業に対する規制は依然として策定の途上にあり、また地域ごとに状況は異なっています。

これらのテクノロジーが市場に届き、規模を形成するためには、独立した機関による保証が不可欠となります。グローバルなベンチマークの構築を支援し、関連する基準の変更と適応に合わせて素早く進化できる体制を整えることによって、将来も有効に存続できる一定のレベルが提供されます。

一つの例が積層造形法（アディティブマニュファクチャリング）です。この革新的な製造技術は、安全性を最重視されない領域では幅広く適用されており、製造業のカーボンフットプリントの削減および循環型経済の促進という点で大きなメリットをもたらしています。積層造形製品は、安全性が不可欠な用途で利用されているため、認証も追いつく必要があります。現在は約60種類の国際的な認証規格が策定されており、それらが積層造形製品や積層造形工程と関連し、適用可能になるよう努めています。そのように競争が激しく、変化の激しい分野では、すでに多くの企業が認証曲線の手取りを選択しています。



概要

サステナビリティでの進捗状況の実現は継続的なプロセスですが、最大のリスクは取り残されたままです。全組織が監視を受け入れており、全員が説明責任を負っています。

このような状況下においては、3つの方法で認証について考える必要があります。1つは組織、顧客、利害関係者の間で信頼と自信を深める土台として、次に継続的改善を支援する枠組みとして、最後に大規模な革新を可能にする手段の一つとして、の3つが重要になります。

第3章：ESG アシユアランスとサステナビリティの高い未来

ケーススタディ：

グリーン水素貯蔵における設計革新の認証

世界的な課題に対応するための革新のペースを、品質の懸念によって遅延させないことが重要です。状況の変化に対応するため、新しいテクノロジーには様々なレベルの技術的な専門知識が必要になります。これらのソリューションに対する新しい市場が開拓されています。



課題

プラスチックと炭素繊維シェルを組み合わせた水素貯蔵に対するEmanoの革新的なアプローチは、重量と価格面での優位性のほか、リスクパフォーマンスの向上をもたらしています。ドイツで水素経済が活発になる中、Emanoはテクノロジーに対する信頼を構築し、安全や品質にはいかなる妥協もしていないことを顧客に再確認させる取り組みを行っています。



ソリューション

設計、製品、製造全体での国際的なベストプラクティス（欧州の圧力機器指令（PED）や米国の機械学会（ASME）の規格など）との徹底した認証、PEDのモジュール Bとモジュール Fだけでなく、炭素繊維で強化された圧力容器に焦点を当てたASME Class Iのセクション10でも認証を取得しました。



メリット

- Emanoの革新的な貯蔵タンクは、主要な顧客の一社であるApex Energyの画期的なグリーン水素エネルギー工場の建設に合わせて納入され、設置を完了しました。
- 欧州と米国の規格全体での認証取得は、貴重な輸出市場だけでなく、国内での貯蔵を含むテクノロジーの応用を目標にできることを意味しています。



YOUR FUTURE. OUR FOCUS.

総括

リスクアシュアランスに対するもっとダイナミックなアプローチの事例

本レポートでは、新しいレンズを通してリスクを見る時が来たと主張しています。リスクマネジメントを改善と革新の機会として活用し、進歩の障害にならないようにすることが重要です。

デジタル技術と審査・検証の新しい方法が、リスクの軽減と認証に対する積極的なアプローチを組織に提供し、急激な変化に直面しても機敏性を可能にし、レジリエンスを向上させることが可能になります。

リモート審査とデータの統合は、サプライチェーンマネジメントに対するダイナミックかつ、モジュール方式のアプローチの可能性の扉を開きます。サプライヤーの可視性を高め、起点から消費者までの製品の移動に関する見方を明確化することができます。

予測的なデータ分析によって、検証、認証からサプライヤーの能力を高めるトレーニングに至るまで、最大の価値をもたらすリソースに焦点を当てながら、ビジネスの品質を維持することができます。

グローバルおよび国内の規格やスキームと比較した独自の認証と検証は、信頼の確立と評判の維持において不可欠な役割を担っています。食品の品質、サイバーセキュリティ、カーボンインパクト、新たなグリーンテクノロジーの信頼性のほか、安全で倫理的な労働慣行へと繋がります。

市場の発展に伴い、顧客、パートナーおよび規格団体と密接に連携して変化のペースに合わせるとともに、デジタル技術を通じて認証と検証の実践の適応と改善に努めることが LRQA のコミットメントです。

LRQA には、80 年を上回るグローバルアシュアランスの経験があります。お客様が絶え間なく進化し続ける状況を乗り越え、将来にわたってビジネスを継続できる環境を支援させていただきます。

LRQA は皆様の未来と共に存在します。これからも LRQA がビジネスパートナーとして皆様を支援させていただきます。

寄稿者

Paul Butcher

CEO, LRQA

Kimberly Coffin

Global Technical Director, LRQA

Simon Emeny

Global Head of Commercial,
Inspection Service, LRQA

Leanne Halliday

Corporate Account Manager Asia,
Middle East and Africa, LRQA

Chris Hammond

Global Head of Sector Marketing, LRQA

Chris Hewertson

Chief Technology Officer, LRQA

Andrew Imrie

Principal Technical Consultant – Innovation,
Business Development and Tech Startups, LRQA

Jeannie Ivanov

Marketing Director, LRQA

Stuart Kelly

Sales Director, LRQA

Heather Moore

Sustainability Technical Director, LRQA

Nick Prescott

Senior GRC Consultant, Nettitude

Benjamin Western

Global Sustainability Manager, LRQA

お問い合わせ

お客様のビジネスパートナーとして、また LRQA のセクター特有の経験を所持する専門家として、最先端の業界知識と専門知識を組み合わせ、見識と先見性をお客様に提供し、ビジネスで直面しているリスクの軽減ができるよう支援させていただきます。

LRQA には率先的に業界を構築してきた実績があり、お客様と協力し、アイデア、サービス、イノベーション等の新しい機会を開拓しています。投資の継続によって最先端の保証サービスの維持に努め、認証、検証、サステナビリティ、トレーニングとサイバーセキュリティの専門家と共に、LRQA の多様性を通じて、お客様のビジネスをサポートさせていただきます。詳細については

<https://www.lrqa.com/ja-jp/>

をご覧ください。



LRQA について

LRQA は世界有数の認証機関です。ブランド保証、認証、サイバーセキュリティ、検証とトレーニングにおける数十年の経験を結集し、急激にリスクが変化する状況下においても、お客様がその課題を乗り越える取り組みを支援させていただいております。

160 を超える国で事業を展開し、30 を上回る世界中の認定機関から認められている LRQA は、ほぼ全てのセクターをカバーし、最高水準の品質と革新を誇り、サプライチェーン全体でのリスクの管理と運用上での改善を推進し、利害関係者との信頼構築が強化できるよう、世界中の組織を支援しています。